

[資料]

## 話し合い学習を進めるための指導内容とその具体化

A study of learning through discussion  
-Teaching contents and embodiments-

河東 幸江  
Sachie KAWATO

間世田 瑞恵  
Mizue MASEDA

若木 常佳  
Tsuneka WAKAKI

福岡教育大学大学院  
教育学研究科  
教職実践専攻

福岡教育大学大学院  
教育学研究科  
教職実践専攻

福岡教育大学  
教職実践講座

(2018年1月28日受理)

本稿は、学校現場での実際の指導を考え、教科書の教材に対する教師の手立てと指導を円滑に進めるために整えるべき環境について小学校段階の3年生と6年生の2学年、小学校段階とつながりのある中学校1年生と最終学年である3年生の2学年を整理した。

今後は、本稿で整理した内容の具体を継続して試行し、学校現場での指導の実際を蓄積していきたい。

キーワード：話し合い 教科書 指導の手立て 環境整備

### 1 はじめに

話し合いの指導は、授業様式の転換が求められ、他者との関わりが欠かせないこと、あるいはコミュニケーション能力の育成という観点からも、今後必要性を増すであろう。しかし、指導する教師の多くは、話し合いについての学習経験が充分ではなく、話し合いのイメージそのもの、話し合い指導に不安を持つことも少なくない。話し合いの指導に対しては、指導内容や指導方法、それに伴う教材開発、あるいは子どもの実態を分析した上での指導の階梯を示すものなどがある。しかし、こうした研究内容と学校現場での話し合いの指導の実際乖離があることも事実である。

本稿では、学校現場での話し合いの指導の実際を意識し、教科書教材を用いた指導について、学校における実習や課題演習から、気づいたことを整理した。実習校で用いていた光村出版の国語科の教科書を参考とし、学校における実習で担当した小学校の3年生と小学校での到達段階となる6年生の2学年分、中学校において

は、学校における実習で担当した中学1年生と3年生の2学年分の指導を推察し、その具体について考案している。

教科書の話し合いに関する内容を取り上げ、それらに対する教師の手立て（指導の手立て）とともに、今回意識したのは、その指導を行う場合に、どのような学習環境が設定されていることが望ましいかということである。学習環境を改めて定義することはしていないが、児童・生徒の人間関係や教師の言動、また、その学習をするためには、どんな学習や育成しておくべき力が必要になるか、といった内容を中心として取り上げている。次項に、その一覧を示すとともに、実習校で実際に行った授業についての指導案等を、付属資料として添付する。

また、取り上げた教材については、話し合いそのものを取り扱ったものだけではなく、話し合いの学習ではないものの、話し合いの力を育成することに関わると考えたものについても取り上げている。

### 2 作成した資料

## (1) 小学校の2学年分の資料

## ① 小学校3年生について

## A) 「よく聞いて、じこしょうかい」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
①教師から順に名前とすきなものを一つ言って自己紹介をする。 ②前の人の話を繰り返した後、自分のことを話す。 ・短い言葉で、はっきりと話す。 ・前の人の話をよく聞く。	・すきなものになりそうな絵の掲示 ・自己紹介前にブレイクストーリーを行う。	・子どもに学習の意味や位置を意識させるために、子どもに分かる言葉で系統性を提示する。 ・教室内の人の声が聞きやすい環境で行う。 ・隣の人の話を聞いて、覚えておくことができる。または、忘れても周りが手助けできる雰囲気がある。

## B) 「よい聞き手になろう」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
【話し手】 ・話題は友だちに知らせたいこと。 ・話の中心 ・話の組み立て(はじめ・中・終わり) 【聞き手】 ・話の中心に気を付けて聞く。 ・自分と関連付けて聞く。 ・質問や感想を言う。 ・他の人の質問や感想も聞く。 【行った後】 どんなことに気を付けて話したか。振り返りを行う。 ○グループ交流	・話題例の提示 ・組み立てをしやすいようにプリント。(教師の例。はじめ・中・終わりで何を書けばよいかわかるもの。) ・質問例	・子どもに学習の意味や位置を意識させるために、子どもに分かる言葉で系統性を提示する。 ・聞くときに相手の方を向くといったことを知っている。 ・学級内がまとまっている。 ・お互いに質問することが算数や社会等の授業の中で日常化している。 ・日常的に教師がよい聞き手のモデルを示し、他教科でも用いられている。 ・様々な質問の言葉を提示し、子どもに浸透させる。 ・事実など質問しやすいものからできるようにする。

## C) 「つたえよう、楽しい学級生活」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
・相手と目的を確かめて話題を設定する。 【話し合いの参加者】 ・司会に指名されてから話す。 ・自分の考えを先に言い、次に、考えた理由を言う。 「どうしてかという、一。」 「理由は、一。」 「一からです。」 【司会】 ・司会をする人を決めてから始める。 ・話題と手順の確かめ。 ・発言する人の指名・順番決め。 ・意見の整理。 ・話題の条件の再提示。 【全体発表】 ・場所に合った声の大きさ。 ・良かったところを伝え合う。	・司会カード ・参加者の心得 ・話し方カード	・子どもに学習の意味や位置を意識させるために、子どもに分かる言葉で系統性を提示する。 ・意見を発表することに慣れている。 ・一人一人が役割を理解している。 ・教師から渡される話形が示されたカードを使うことに慣れている。 ・グループの中で、日頃上手いかならないことを子どもから吸い上げることができる。 ・教室に発言の仕方の具体を提示しておき、順次書き換えていく。 ・日頃から教師が良い司会者となり、その様子を見せる。 ・日頃から話し合いで解決したいという習慣をつけておく。 ・日常的にグループで話し合うことを取り入れ、慣れさせる。

## D) 「しりょうから分かる、小学生のこと」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
・資料を元に発表「○○を見てください。」 「ここから、一ということが分かります。」 「いちばん多いのは(いちばん少ないのは)、一です。」 「比べてみると、	・資料の読み取り方についての説明 ・発表の原稿カード	・子どもに学習の意味や位置を意識させるために、子どもに分かる言葉で系統性を提示する。 ・聞き手がどのように聞いたらいかが分かっていく。

<p>一。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話題をはっきりさせる。</li> <li>・資料のどの部分から何がわかったのかははっきりさせる。</li> <li>・聞き手への資料提示の仕方。</li> <li>・資料から分かることと考察・感想を分けて話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何回も練習する等して、発表することに自信を持っている。</li> <li>・この学習が話し合いのどんな力につながるのかを示す。</li> <li>・日常的に何らかの根拠（事実等）を取り上げて述べるができる環境を作っておく。</li> <li>・日々の授業の中で、比較したり、選んだりする活動がある。</li> <li>・理科や社会の授業の中で、資料の読み取りにたれさせる。</li> </ul>
---	---

<p>断を聞く</p>	<p>を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流する前に自分の思いをまとめたものを用意している。</li> <li>・これまでに学んだ質問の仕方や言い方を見れるようにいつでも教室に掲示しておく。</li> </ul>
-------------	--

C) 「スピーチ」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題の考え方</li> <li>・スピーチの内容と構成の考え方</li> <li>・質問 「〇〇は△△という意味ですか？」</li> <li>・意見、感想 「〇〇についてもう一度言ってください。」 「私は～だと思いました。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ原稿書き方プリント</li> <li>・段階的に指導する。 (例) テーマ→ブレーンストーミング →まとまりごと →全体</li> <li>・聞き方ポイント</li> <li>・メモ用プリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに学習の意味や位置を意識させるために、子どもに分かる言葉で系統性を提示する。</li> <li>・スピーチをする際に、原稿なしで行うことができるようになっている。</li> <li>・人前で話すことができるような人間関係ができています。</li> </ul>

② 小学校 6 年生について

A) 「学級討論会」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
<p>「〇〇について質問します。」 「なぜなら～。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主張、質問、まとめの仕方</li> <li>・立場や主張を明確にして発言する。</li> <li>・相手の発言の意図を考えながら聞き、その主張と理由が適切かどうかを検討する。</li> <li>・たがいの立場の、いちばんのちがいは何かを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモの仕方のプリント</li> <li>・司会者原稿</li> <li>・それぞれの場面（意見・質問・反論）で役割（賛成側・反対側として何かを話せばよいか）が分かるプリント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに学習の意味や位置を意識させるために、子どもに分かる言葉で系統性を提示する。</li> <li>・グループでの話し合いの経験があるようにしておく。</li> <li>・意見を自由に言い合える人間関係が構築されるようにグループでの話し合いを日常的に取り入れる。</li> <li>・相手にストレスを与えにくい表現や言い方を教師が日常的に示す。</li> </ul>

B) 「意見文」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文についての詳しい説明</li> <li>・確認</li> <li>・理由や方法</li> <li>・相手の評価や判</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言い方カード</li> <li>・表情カード（はてなカード）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに学習の意味や位置を意識させるために、子どもに分かる言葉で系統性</li> </ul>

③ 2 つの学年を比較しての気づき

- 学級全体で話し合うといった内容は、3 年生の内容にはなく、6 年生には出てきている。一方、3 年生の場合は、グループでの活動が 6 年生よりも多い。
- スピーチは、3 年生が好きなものといった簡単なものになっている。一方、6 年生は「はじめ・中・終わり」という文章の構成を意識したものになっている。
- 意見文のような発表の場合、6 年生は一人で全ての内容を担当しているのに対し、3 年生は「はじめ・中・終わり」で担当を分けるなど負担が少ないようになっている。
- 3 年生では「聞く」に特化した単元が入っているが、6 年生には「聞く」に特化した単元が入っていない。

(2) 中学校の 2 学年分の資料

① 中学校 1 年について

A) 「スピーチ」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境

<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ会を開くまでの流れ</li> <li>・スピーチメモの例</li> <li>・感想の伝え方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチを作る際の視点</li> <li>・スピーチを聞く際の視点</li> <li>・聞きながらのメモの取り方（モデルを提示）</li> <li>・感想を言い合う際のモデル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に学習の意味や位置を意識させるよう、生徒が分かる言葉で学習の系統性を提示する。</li> <li>・スピーチ内容によるグループ編成</li> <li>・話す能力、聞く能力が身についている。</li> <li>・生徒同士の信頼関係が構築されている。</li> </ul>
--	--	--

B) 「グループディスカッション」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの例</li> <li>・「発言するとき」「聞くとき」「司会をするとき」のポイント</li> <li>・グループディスカッションをするまでの流れ</li> <li>・質問するときを使う表現</li> <li>・ディスカッションの内容、発言の役割の提示</li> <li>・グループディスカッションの報告の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの良い例だけではなく、悪い例と比較させることで生徒から重要なことを見つけさせる。</li> <li>・行う前のミニレッスン（意見の比較、質問の仕方等）</li> <li>・質問をするとどのようなメリットがあるか考えられる例を提示</li> <li>・司会者の「台本型手びき」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に学習の意味や位置を意識させるよう、生徒が分かる言葉で学習の系統性を提示する。</li> <li>・生徒同士の信頼関係が構築されている。</li> <li>・生徒が自分の意見をもって発言している。</li> <li>・グループの意見を分類整理する能力が身についている。</li> <li>・日頃の授業の発表を聞く際に教師が生徒の意見を引き出す質問を意識的に行う。</li> </ul>

C) 「ポスターセッション」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターセッションを行うまでの流れ</li> <li>・話し合いの例</li> <li>・ポスターの例</li> <li>・ポスターセッションの進め方</li> <li>・聞き手の興味をひく発表の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一年で学んだ国語の題材の整理表</li> <li>・教師が作成したポスターセッションのモデル</li> <li>・アンケートの取り方の例</li> <li>・ポスターの良い例・悪い例の比</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に学習の意味や位置を意識させるよう、生徒が分かる言葉で学習の系統性を提示する。</li> <li>・生徒同士の信頼関係が構築されている。</li> <li>・生徒自身の意</li> </ul>

	較	<p>見がまとまっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の授業から発表だけでは終わらず、その後の意見交換を教師が重視する。</li> </ul>
--	---	--

② 中学校3年について

A) 「スピーチ」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会との関わりを考えてスピーチをする。</li> <li>・スピーチの相手と目的を考えて表現を直す。</li> <li>・構成メモ、スピーチの例が載っている。</li> <li>・振り返りの話し合いが設定されている。</li> <li>・話し合いの例も載っている。（相手や目的に応じたスピーチに重点が置かれている。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチの話題として考えやすいように視点（学校で行われる行事など）を与える。</li> <li>・場面や相手を考えさせるために、ロールプレイのような例えを書いたカードを使う。</li> <li>・構成メモに書くことを簡略化し、生徒に示す。</li> <li>・振り返りの話し合いのモデル提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に学習の意味や位置を意識させるよう、生徒が分かる言葉で学習の系統性を提示する。</li> <li>・質問しやすく話し合いが活発になるよう、スピーチ内容のテーマが異なる人とグループ構成を行う。</li> <li>・グループ内の関係性が良い。</li> <li>・生徒同士・生徒教師間でも信頼関係がある。</li> <li>・日頃の活動で1分間スピーチを入れ、基本的なスキルを体験的に身に付けさせる。</li> </ul>

B) 「会議を開く」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを効果的に進めるポイントの提示</li> <li>・話し合いを行い合意するまでの過程が提示</li> <li>・全体での会議の進め方例</li> <li>・全体会議での話し合いの例</li> <li>・話し合いでの表現例</li> <li>・話し合いの振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを生徒の身近なことで考えられるテーマを決定する。</li> <li>・行う前のミニレッスン</li> <li>・司会者用「台本型手びき」</li> <li>・全体会議は役割ごとの仕事をこなさなければならぬ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に学習の意味や位置を意識させるよう、生徒が分かる言葉で学習の系統性を提示する。</li> <li>・生徒同士の人間関係が構築している。</li> <li>・考えやすい身近なテーマ</li> <li>・「台本型手びき」を使用した話し合いに慣れさせおく。</li> <li>・全体会議での役割を提示</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>全体で意見を話し合う授業を前段階で行っておく。この授業の際、体験的に知識を身に付けることができるようにする。</li> </ul>
--	--	--

C) 「語り合う」

教科書に書かれている内容	教師の手立て	望ましい環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>三年間の学習を振り返り、一つの冊子にする。</li> <li>構成の仕方の例</li> <li>整理する観点の例</li> <li>発表でのポイント(まとめ方の例)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三年間を見据えてプリントやノートをもとめられるように記録をまとめておく。</li> <li>振り返りを構成した例を提示する。</li> <li>発表の際は、相手の冊子と自分の冊子の比較を行いながらコメントを書くように指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に学習の意味や位置を意識させるよう、生徒が分かる言葉で学習の系統性を提示する。</li> <li>自分の学習過程を集積する習慣が身につけており、三年間使ったノートやプリントが保管されている。</li> <li>まとめ方が異なる生徒で班を構成し発表する。</li> <li>生徒同士の信頼関係がある。</li> </ul>

③ 2つの学年を比較しての気づき

- スピーチについては、中学校1年生でスピーチの流れやメモの仕方等、スピーチの基本的なことを学習するのに対し、中学校3年生では社会との関わりを考え、相手や目的を考えてスピーチする等、内容に重点を当てた学習になっている。
- 中学校3年生においては原稿ではなく、構成メモでスピーチを行うためその場に応じて自分で考えて発言することが求められる。「相手や目的に応じて」とはどういうことか、教師がしっかりとモデルを提示することが重要であると考える。
- ディスカッションについては、中学校1年生ではグループディスカッションであるのに対し、中学校3年生では学級全体でディスカッションを行うことになっており、ディスカッションの規模が異なる。そのため、まとめる生徒や補う生徒、意見を集約する生徒など多くの役割を全体で分担しなければならない。そ

のため、生徒が話し合いに必要なことを明確に理解しておくことが求められる。

- 人数が多くなると司会に対する負担が大きくなる。司会・副司会等、仕事が多くなって生徒が混乱しないような配慮が必要である。全員に役割を与えることも忘れてはならない。

3 おわりに

教科書教材を実際に行うにしても、その指導に至るまでの準備がある。それは、その活動をするためには、何ができていなければならないかを考え、学習準備を整えておくことである。今回、それを「望ましい環境」として示した。教師の手立てだけが焦点化されることが多いが、円滑に目的の学習を進めるためには、学習準備に対する配慮を丁寧に集積しておかねばならない。大切なことは、教師も児童・生徒も、その時だけの学習に終わらないようにという意識を持つということである。

その活動をするためには、何ができていなければならないかについて、教科内容の系統的指導が中核となるが、それに加え、学級内容での人間関係構築、その学習活動が無理なくできるような活動の訓練、そして、教師の言動による具体的提示(モデル)で、価値を明確にしておくこと等が挙げられる。

本研究では、その一部を学校における実習での実践を中心に考えた。今後は、他の学年について行うとともに、望ましい環境について、書き加えることが必要である。

4 補足資料(指導案等)

(1) 指導案例

① 小学校3年生

B) 「よい聞き手になろう」を意識した学習例  
 単元名 『旅の絵本』(安野光雅) で見つけたことを交流しよう」の授業

学習活動と予想される子どもの反応	教師の支援(○)と評価(※)
1 今日行う活動やめあてについて理解する。 (1) 『旅の絵本』の紹介。 (2) 今日の学習の流れの説明を受ける。	○ 子どもが緊張しないように、本を使ったゲームのような感覚で行うようにする。

<p>1. 『旅の絵本』の1ページを眺め、自分の見つけたことをまとめる。</p> <p>2. 隣の人と学習プリントを使いながら自分が見つけたことを話し合う。</p> <p>3. 隣の人の見つけたことについての感想を言う。</p>	
<p>めあて 『旅の絵本』から見つけたことをとなりの人と交流しよう。</p>	
<p>2 『旅の絵本』の活動を行う。</p> <p>(1) 『旅の絵本』を配る。</p> <p>(2) 自分の見つけたことをまとめる。</p>	<p>○ 話し合うことができるようにするために、見つけて思ったことを簡単にまとめるように仕組む。</p>
<p>(3) 隣の人と学習プリントを使いながら自分が見つけたことを話し合う。</p>	<p>○ 話し合う時に使えるモデルを適宜示していく。</p> <p>※ 『旅の絵本』で自分が思ったことを隣の人に話すことができる。</p> <p>※ 話を聞いて相手に言葉を返すことができる。</p>
<p>(4) 隣の人の話を聞いての感想をお互いに言う。</p>	<p>○ なぜ、そう思ったのか相手に伝わるようにするために、理由を含めた感想を言うように仕組む。</p>
<p>3 本時学習を振り返る。</p>	

② 中学校3年生

B) 「会議を開く」の学習例

単元名「話し合って提案をまとめよう」の指導案  
全3時間中2時間分 提示

(1/3)

学習活動・内容	手だて (○) と評価 (◇)
1 本単元学習内容の確認	○ 話し合いを行う際に意見を言うだけに留ま

<p>・アンケートの振り返り</p> <p>・話し合いの意義</p>	<p>っていないか考えるために、話し合いを行っているときのことを考えさせる。</p>
<p>2 質問力アップゲーム (2回)</p> <p>・2回目は班の1人に質問のポイントを配布する。</p>	<p>○ 話し合いに必要な質問についての重要性に気付くために、質問力のゲームを行わせる。</p> <p>○ スムーズにゲームを行うために、机間巡視を行い助言をしながらゲームをスムーズに行わせる。</p>
<p>めあて 話し合いを深めるために必要なことを考えながら、よりよい提案をまとめてみよう。</p>	
<p>3 話し合いのテーマ設定</p> <p>・F中学校の良いところ</p>	<p>○ 中学校生活が残り3か月の学年だから考えられる良い部分・残した部分を考えさせるために、先生方何名かのF中学校のよさを伝える。</p>
<p>4 これからの流れの確認</p>	<p>○ 生徒が考えやすくなるために、4つの視点から話し合いを行っていくことを伝える。</p> <p>・環境 ・行事 ・生徒 ・その他</p> <p>※何について話し合いたいか最後に提出させ、次回までに班を作る。</p>

(2/3)

学習活動・内容	手だて (○) と評価 (◇)
1 前回の復習	○ プリントを見ながら、前回出た良いところをプリントにまとめて配布
2 グループ発表	○ 話し合う項目ごとに割り振りをしたグループを発表する。時間がかかるため、表にして板書

3 めあて確認	に掲示する。
話し合いを深めるために必要なことを考えながら、よりよい提案をまとめてみよう。	
4 合意形成の説明	<p>○ アンケート結果を発表したのちに、教科書の合意形成のためには？を読む。</p> <p>→ 合意形成を行う具体的な例をプリントで作成し、照らし合わせながら学習させる。</p>
5 グループに分かれて話し合う	<p>○ 後輩に伝えるにはどのようなことに気を付けるか話し合っていく。</p> <p>○ 画用紙を渡し、班の中で質問し合いながらボードを作成していく。</p>

## (2) 学習に用いた「台本型手びき」例

中学校3年「俳句」の学習例の中から一例のみ、提示する。

生徒の1人にミニ台本の形で配布し、司会者の役割を見やすく具体例とつなげられるように記した。本稿では説明のみを示す。

### i) 司会者の役割説明 (左)

<p>司会者さんメモ (担当者決め)</p> <p><u>※このメモはあなたしか見てはいけません。</u></p> <p>① 班の1人1人がどの部分を担当したいか、まずは全員の意見を聞いてください(そのときはあなたが進行役です)。</p> <p>② やりたい部分が重なっている人がいた場合、もう一度なぜその部分をやりたいのか聞いていきます</p> <p>③ 1番納得できた人にその部分の担当を任せてください。(もしあなたが重なっていれば公平のためにあなたの席の隣の人に決めてもらいましょう。)</p> <p>④ 担当者が決まったら、先生に誰がどの部分を担当するか報告に来てください。(次のプリントを渡します)</p>
--

### ii) 左側の説明の具体的発言例 (右)

<p>進め方の台本 (例)</p> <p>①「〇〇さんから順番に、担当したい部分と理由を言ってください。」</p>
---

<p>(1人目が終わったら)「ありがとう。じゃあ次の人お願いします。」</p> <p>※この流れを3人続けて行います。最後に自分が担当したい部分と理由を言っていきましょう。</p> <p>②「〇〇さんと〇〇さんが重なってたから、もう1回ずつ、なんでその部分をしたのか教えて。その理由を聞いて、今日は時間が無いから私が判断するね!」</p> <p><u>自分が重なっていた場合</u></p> <p>「私と〇〇さんがかぶってたから、もう1回ずつ、なんでその部分をしたのか言っていくね。隣の人に判断してもらおうように書いてあるから、〇〇さん。理由を聞いて納得できる方を教えてね」</p>
---

### iii) 全体に示したルール

<p>ルール</p> <p>1 <u>ジャンケンで決めてはいけません。</u>あなたの司会で班の担当を話し合いで決めていきましょう。</p> <p>2 どうしてもわからないことがあれば、静かに手を挙げてください。</p>
--

## 主な引用・参考文献

- 安野光雅 1977 『旅の絵本』 福音館書店
- 甲斐睦朗 2015 『国語三上 わかば』 光村図書
- 甲斐睦朗 2015 『国語三下 あおぞら』 光村図書
- 甲斐睦朗 2015 『国語六 創造』 光村図書
- 甲斐睦朗 2017 『国語1』 光村図書
- 甲斐睦朗 2017 『国語3』 光村図書
- 若木常佳 2005 「話す・聞く能力を高める指導方法について - 「台本型手びき」の成果と留意点」教育学研究 紀要 51 中国四国教育学会 pp. 458-463